

50-70 プログラムについて

関西連盟では今年度の重点事業項目に「50-70 プログラムの研究検討」を挙げています。また、先日開催した1月度常任理事会において、関西連盟選手権大会後に各ブロックでデモンストレーション試合を行うよう決定されました。ここでこのプログラムの実施される背景、意義、内容等について簡単なお説明をいたします。

1. 50-70 プログラムとは

従来のリトルリーグのサイズ（投手間距離 46ft=14.02m、塁間距離 60ft=18.29m）をそれぞれ 50ft=15.24m、70ft=21.34m としたことで名付けられています。

2. 50-70 プログラム実施の背景と実施状況

このプログラムが打ち出された背景は選手の体格向上に伴っての危険防止や、米国内のリーグからニーズが寄せられたからで、(パイロット) プログラムは 2010 年に開始され早ければ 2013 年のリトルリーグワールドシリーズを含む国際トーナメントへの完全統合の可能性があります。

国際本部ではこのプログラムを 11~13 歳を対象範囲と考えているようですが、ワールドシリーズを行う場合の年齢区分については確定していません。いずれにしても関西連盟でのマイナー年齢の選手たちも対象外です。

3. 50-70 プログラムのその他の主なルール

グラウンドサイズは上記投手間及び塁間距離以外はフェンス距離については各リーグに任されます。200ft=60.96m から 300ft=91.44m が推奨です。これは従来のリトル規格の球場であっても試合は可能だと言えます。

グラウンドサイズ以外には「離塁」「盗塁」「ヘッドスライディング」「振り逃げ」などがあります。(注) 振り逃げは今年から採用されます。ほかにバットの直径は $2\frac{5}{8}$ "=6.8cm ですが 11~12 歳の場合は従来のリトルサイズ ($2\frac{1}{4}$ "=5.7cm) との情報もあります。また投手の投球数制限や休養期間なども定められています。

4. 関西連盟が 50-70 プログラムを推進する意義

関西連盟が今年デモンストレーションゲームを行い、更に推進しようとする目的(意義)は次の通りです。

- ① 国際本部が指摘しているように最大の目的は危険防止にあります。体格向上に加えてバット、ボールなどの性能向上は日本にリトルリーグが導入された当時と比較しその想定をはるかに超えており、我々は 1 日も早く対策を決断しなければならない時期に直面しています。
- ② 2 番目は会員達のリトル卒団後の中学野球への対応です。離塁がないルールに慣れてきた選手たちには多少の戸惑いがあるのは事実です。「直ぐに慣れる」ことも事実ですが、中学野球が過熱気味の中、「遅れる」を怖れる選手・保護者の存在と、それを喧伝する人々の存在も無視できません。
- ③ 一方少年たちに無理をさせないことを主眼とした「盗塁に神経を使わない等」の現行リト

ルリーグのルールはスピード感あふれる試合などと相まって素晴らしいものがあります。同時に年少のマイナー年代の子供たちにとっては怪我の危険も少なく最適であります。このように考えますとリトルリーグとしてはこの二つのルールを年齢別に併用するべきであろうと考えます。

- ④ これも重要な問題です。国際本部は12～13歳をこのプログラムの中心に考えているようです。そして主として米国内でパイロットプログラムを実施し、その結果が成否の判断に大きく影響を与えることになるでしょう。もし、ワールドシリーズが12～13歳で行われたら、中学野球が厳然と存在する日本ではこれに対応するチームを編成派遣することは不可能だと言えます。

また、11～12歳のワールドシリーズが従来通りのルールのもとで行われることが固定化した場合、日本のリトルリーグは「危険」性の高い野球を続けて行くことになるでしょう。あるいは12歳～13歳が50・70ルールで、現行ルールでのワールドシリーズが10～11歳に変更なるかもしれません。それ場合においても我々は大きな変化を伴った対応が必要になってきます。

その意味で私たちはこのプログラムが11～12歳の少年たちが十分に対応可能であることを証明し、国際本部にアピールしなければなりません。

(注) 国際リトルリーグの年齢範囲について

国際リトルリーグでは5歳のティーボールから、18歳のビッグリーグまでの少年たちを一つの組織の中に含めています。この年齢層の間にティーボール、マイナー、メジャー（日本でのオールスター）、ジュニア、シニアそれにビッグリーグがあり、他にもソフトボールも各年齢層で含まれています。このように日本で我々が考えるより、容易に年齢区分の変更が行い得ます。なお、関西連盟では次年度より「オールスター」との呼称を国際本部に合わせ「メジャー」と呼ぶことに決定しています。

5. デモンストレーション試合について

デモンストレーション試合の内容については各ブロックで実情に合った方法を採用してください。全リーグが参加する必要はありません。また関西大会終了時にリーグを離れて行く会員もいるかもしれません。全て各リーグの判断で結構です。

試合は単独チームでも、合同チームでも問いません。もとより勝敗を争うものではありません。

必ず実行していただきたい点は次の通りです。

- ① チームには6年生（現5年生）を含めてください。11歳の対応を確認するためです。
- ② ブロック内全リーグの主要役員が当日試合会場に集まり観戦してください。
- ③ 以上に結果を報告書として提出してください。

以上

2012年1月

リトルリーグ関西連盟

理事長 溝 端 延 彦